

平成29年度第7回市民と市長の対話集会

# 市長と語ろう！

## ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

### 開催結果報告書

- 1 開催日時 平成30年（2018年）2月21日（水）  
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 旭南公民館 1階大ホール
- 3 参加者 7人 傍聴者 10人



ほっとミーティングの様子

## 4 市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。また、皆さんにはそれぞれの立場で、地域また市内のまちづくりに尽力いただいております、重ねて御礼を申し上げます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。平成23年、市長に就任した一期目は東日本大震災が発生した直後だったこともあり、安心安全をテーマとした対話集会を行いました。翌年は、それぞれの地区の魅力を活かすような意見を伺うため、まちづくりをテーマとして実施しました。

平成27年、二期目以降は、今後目指すまちづくりの計画として策定した「ひらつかNEXT」を基にした対話集会を実施しています。

御存じのとおり、全国規模で少子高齢化が進み、人口が減少しています。本市も例外ではなく、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市では、平成22年11月の26万863人をピークに人口が減っている状況です。ここ数年で、人口は戻りつつあるものの、依然として厳しい状況です。神奈川県も、来年をピークに人口が減っていくのではないかと聞いています。

国からは、自治体が存続するため、それぞれの地域で抱えている課題を踏まえ、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNEXT」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしく願います。

## 5 主なミーティングの内容

### ① 高齢福祉について

#### 【参加者】

旭南地区の社会福祉協議会では、単身の高齢者に対して、高齢者安心カードを配布しています。積極的に周知活動を進めているところですが、よろず相談センターや町内福祉村などの認知度が上がらないことは課題です。地道に活動し、周知を広げていくことで、日常生活の安心に寄与できると考えています。

#### 【参加者】

旭南地区の社会福祉協議会と協力し、民生委員として、単身の高齢者の方の誕生月にトイレットペーパーを2つ配布しています。日頃、顔を合わせられないような方とお会いし、健康状況等を把握できるので、この活動が高齢者の方とつながるいい手段だと考えています。

#### 【参加者】

年をとっていくなかで、健康寿命が大切だと考えています。介護予防として、歩くこと、運動することを積極的に進めていくことが求められています。座っているだけの介護サービスでは逆効果なのではないでしょうか。

#### 【参加者】

介護サービスの内容については、事業者ごとにメニューが異なります。サービスを受けられる方の介護度の状況等を踏まえて、最適なサービスの提供が必要だと思います。

#### 【参加者】

サロンに参加される元気な高齢者も多くいます。こうした元気な高齢者の方が、子育て等、地域の活動に関与できるといいのではないのでしょうか。言うのは簡単ですが、実際に実現するためには、多くの課題があると認識しています。

#### 【参加者】

活動内容等を広く周知するという点では、月に1回、自治会や社協、民児協、よろず相談センター、町内福祉村などで情報交換をしています。旭南地区は、市内で一番交流サロンがありますので、活動は積極的だと思います。

#### 【参加者】

幼少時から、健康に関心をもてるような活動が必要なのではないのでしょうか。地域だけでなく、国や市など、大きな枠組みで進めていくことが求められていると思います。

## 【市長】

皆さんが、それぞれの立場で尽力いただいていることに、感謝申し上げたいと思います。高齢者の方を対象とした多くのサービスや活動があるなかで、それをどう周知していくのが課題であると認識しています。

本市としても、高齢者に対する見守りサービスとして、在宅時緊急通報システム、お話し見守り歩数計、はいかいSOS平塚がありますが、まだまだ広まっているとは言えないのが現状です。こうした見守りサービスを必要な方に提供をするためにも、周知活動を強化していきたいと考えており、その旨、福祉部局へ伝えます。

元気な高齢者の活用については、ひらつか元気応援ポイント事業を実施しています。生きがいを見つけ、地域に貢献することができますので、参加を呼びかけていきたいと考えています。

十分な介護サービスを提供できるようにすると同時に、介護を受けなくてもいい健康的な生活を続けられるようにすることも求められています。健康寿命を延ばしていくという道筋を示す政策をしていかなければなりません。

旭南地区は、高齢化率が高くなっていますが、その対策について、熱心に考えられている方が多く、地域を支えていただいていることに感謝します。本市としても必要な政策を進め、一緒に支えていきたいと考えています。

## 【参加者】

高村地域の高齢化率は53%、0歳から14歳の年少人口は3.3%であり、市内でも急速な高齢化が進む地域です。2025年には、団塊の世代が75歳を超え、後期高齢者の割合が大きくなります。国では、住み慣れたところで、医療や福祉、生活支援を受けることができる地域包括支援システムを進め、多くの高齢者の受け皿を作ろうとしています。

高村団地では、UR都市機構が主体となり、地域医療福祉拠点化に取り組む予定と聞いています。事業を進めていくにあたり、市からUR都市機構に要望していただきたいことがあります。一点目として、計画作成にあたり、地元の自治会、福祉団体等にも参画してもらいたいこと。二点目は、地域の医療や福祉の団体が、地域医療福祉拠点に参加したい場合は配慮いただきたいこと。三点目は、地域医療福祉拠点には、既存の医療、福祉施設と連携がとれるようにしてほしいということ。四点目は、若い世代が暮らしたいと思える団地再生を果たしてほしいとのことで、地域活動をする学生を対象に家賃を安くなるなどとした制度を検討できないかどうかということでした。

【参加者】

高村団地に商店街があったときは、活気があったように思います。しかし、現在は家賃が高く、バリアフリーも不十分で、高齢者が住みづらい状態です。若い世代が住んでもらうようにしないと、活気ある地域にならないと思います。

【参加者】

高村団地の再生計画は知りませんでした。計画の成功により、平塚市が抜本的に変わるかもしれません。協力できることがあれば、協力していきたいです。

【参加者】

高村団地の高齢化については、何かをしなければならないという気持ちはありますが、有効な手立てが無いと感じています。田村のUR都市機構の団地には、若い方も住んでいます。どうやって、若い世代に来てもらうかを考えていく必要があります。地域の活動をすることで、家賃を安くするという提案は面白いかもしれません。

【参加者】

災害の発生時、被災者に対して、安い家賃で空いている団地を貸すことができればいいと思います。市が主体的に対応できるといいのではないのでしょうか。

【参加者】

高村団地ができて42年が経過しました。高齢者だけでは再生することはできません。若い人を呼ぶ地域づくりが早急に必要だと改めて感じました。

【市長】

先ほど、御意見があったとおり、高村団地は完成してから42年が経過し、高齢者の方々が住みづらくなっています。その中で、UR都市機構は、老朽化した高村団地の再生事業を平成20年以降検討してきました。その話を聞き、再生事業をするのであれば、一緒に地域包括ケアシステムを組み込むことができれば、住む人たちに優しい高村団地ができると考えました。

そして、平成28年12月、UR都市機構と平塚市で「平塚高村団地及びその周辺地域におけるまちづくりの推進に係る連携協力に関する協定」を結び、団地内に地域医療福祉拠点を作ることで、地域包括ケアシステムの実現を進める予定です。住み慣れた地域で、医療や福祉、生活支援を受けることができる地域包括ケアシステムの理念を根付かせ、平塚市のモデルケースにしたいと考えています。スケジュールとしては、平成31年度に入ってから解体を始め、再整備を進めていく予定となっています。

また、UR都市機構への四点の要望について、お話します。一点目の地域の参画については、計画を進めていくうえで大切だと考えています。平成30年度4月以降、地元の自治会や社協等に呼びかけをして、意見を伺う機会を設けたいと思います。

二点目の地域の医療、福祉関係団体の参画については、これも地域と同様に大切な部分であり、地域包括ケアシステムの大きな要素ですから、団体と連携して進めていきたいと考えています。

三点目の既存のネットワークでの連携ですが、現在ある連携態勢のなかで、どう関与して、どう活用できるのか、検討していきながら進めていきたいと考えています。

四点目の若い人たちを呼び込む点ですが、高村保育園も建て替えて定員を増やす予定です。また、お子さんと共に交流ができるような配置作りを求めていきます。大学生に対しての割引制度については、可能かどうかを含め、呼び込むための制度として、検討してほしいと思っています。

やはり、多世代の交流がないと、地域が活性化されません。イメージとして、地域を福祉的、介護的な部分だけでなく、日常生活を過ごすうえで、不自由のない地域にならないといけません。それも一緒に考え、作っていきたいと考えています。

本市としてもここに力をいれ、将来的に、高齢社会の中でも、モデル地区として、位置付けます。四点の要望は UR都市機構へ伝えます。

#### 【参加者】

そうしたまちづくりができれば素晴らしいです。高齢化が進むのをただ見守っている状況だったので、将来の対策を講じているということはいいことだと思います。子育て世代の親御さんたちが安心して住むことができるまちが理想です。

## ②安心安全について

#### 【参加者】

日常生活における買い物、ごみ出しに苦勞している方が多くいます。特に団地の高い階に住む方々が大変だと思います。

#### 【市長】

買い物については、お店で買わないで、配達する仕組みが増えてきていますが、本市としては、地域商店街の店舗に出向いてもらい、地域とのつながり、情報交換ができるような機能、仕組み作りが必要だと考えています。地域商店街の意義というのは、買い物だけでなく情報のやりとりでも重要性があります。

ごみ出しについても、町内福祉村で実施している場合もありますし、総合事業において生きがい事業団で実施している場合もあります。戸別収集については、廃棄物対策審議会で審議されており、ごみ収集の有料化を含めて、検討を進めているところです。

#### 【参加者】

町内福祉村でも、買い物とごみ出しの相談が多くあります。戸別収集は藤沢市が既に始めていると聞いています。

#### 【参加者】

運転免許証を返納した後、移動手段として市がどう支援していくのでしょうか。移動手段が確保できなければ、80歳を超えても返納できません。市では、コミュニティバスもありません。免許返納の問題は重要で、このままでは高齢者の事故が増加すると思います。

#### 【市長】

現在、高齢者の事故が増加しており、免許証の返納は課題です。高齢の御家族がいらっしゃる方は心配だと思います。御指摘があったとおり、免許証を返納しても、移動手段がなければ、日常生活に支障があります。公共交通機関を移動手段とする整備をしていかなければなりません。免許証の返納と公共交通機関の整備は一体として考えて機能させていく必要があります。運転免許証は、個人の権利ですから、行政の立場として、積極的に返納を促すことは難しいです。しかし、医療機関を経由した形で公安委員会が返納させる仕組みはあります。返納しても、安心安全に移動できる仕組み作りをしていくことが行政の役割だと認識しています。バス事業者とも、そうした点について検討を続けているところです。バスやタクシーの乗り合いの仕組みも検討している一つです。地域包括ケアシステムでは、交通のあり方も大きな課題です。

平成30年度以降、地域公共交通活性化協議会という組織を立ち上げ、各地域の中で交通の利便性を高める方法について検討を始めることになっています。具体的に、この地域にどういった交通網を配置するか、大きな枠組みの中で計画を考えていく時期になっています。交通政策課という担当がありますので、そこに指示をしているところです。

### ③子育てについて

#### 【参加者】

お子さんの安全面についてですが、歩道や車止めがない通学路があります。公安委員会と協議して、通学時間帯の規制を行い全面通行止めにするなどの対策はできないのでしょうか。実際に事故があつてからでは遅く、ぜひ考えていただきたいです。

#### 【市長】

話題に挙がりましたが、地区社協や町内福祉村など地域の皆さんが見守り隊のような形で子どもの安全対策を担ってもらっています。従事いただいている

ことに感謝申し上げたいと思います。

登下校については、通学路の問題がありまして、毎年教育委員会で通学路の安全点検を実施しており、改善点を各学校から挙げてもらい、公安委員会や警察署の方と協議しています。しかし、ハードの整備となるとすぐには難しいです。ですので、時間規制をして、スクールゾーンの中に入れないとか、道路の形状を変えてスピードを出せないようにするなどの取り組みをしています。それぞれの地域で危険箇所を把握していると思います。

実際、具体的な対策は難しいところではありますが、いつ事故が起きてもおかしくない状況もありますから、お子さんの安心安全のための対策を教育委員会へ取り組むよう指示します。

**【参加者】**

地域では、学校の委員や交通指導員、交通安全の母の会が、毎朝交通指導をしています。高根の通学路にも危険箇所があります。交通量が多く、帰りの時間帯が特に危ないという話をよく聞きます。

**【市長】**

歩行者用の信号を設置するには、待機場所がないと設置できません。警察にお願いしていますが、設置する予算が厳しいとの声もありました。基準が合致すればカーブミラーの設置などは実施しているところですが、やはり歩行者用の信号が必要であるという御意見は担当部署へ伝えたいと思います。

**【参加者】**

下校時間の見守りをしています。小学1、2年生のお子さんは落ち着きがないため、気を付けています。見守りをして気になる点は、自転車の一時停止がほとんどないということです。お子さんが歩いてきているのがわかっているのに、自転車は停止しません。

ですから、お子さんの安全を守るためには、お子さん自身を止めないと危険です。私たちもボランティアで、強制権はありません。安全を確保できるとき、お子さんを渡らせるようにしています。安全確保には、長い時間待たなければなりません。できることから地道に活動していくしかないと思っています。

**【参加者】**

市役所も含め、駐車場が有料化になりました。博物館、図書館、公民館を含めて、1時間しか駐車できないことで、学ぶことに対して制約を設けてしまったように思います。子どもを連れて行っても1時間で帰ることになります。延長や割引などがあると助かります。もう少し、学ぶことを大切にしたい環境にしてほしいです。

**【市長】**

駐車場有料化については、受益者負担を第一として実施しています。施設を利用いただく方たちには自動車だけではなくて、自転車で来られる方、公共交通機関で来られる方もいます。そうしたことから、「負担額との公平性」を図る必要があります。また、適正利用を図るということも重要です。駐車場の有料化をすることで、しっかりとした環境づくりをしていきます。

駐車場有料化は、決して社会教育の学びを制限していくものではありません。博物館や図書館、美術館などの社会教育施設の利用者につきましては、配慮する必要性も含め、駐車場の利用実態などを引き続き検証していきます。

**【参加者】**

そのお言葉をいただき安堵しました。時間超過の場合、利用者負担は仕方がないですが、もう少し安いと行きやすいのではないのでしょうか。

**【参加者】**

様々な問題が出ましたが、簡単に解決できない問題が多いと思いました。私たちが常日頃ごみ問題などを話すのですが、ごみ出しをする人の介護保険料の減免をしてくれる自治体があると聞いたことがあります。

安心安全に関することですが、金目川が増水すると河内川が溢れてしまいます。低い堤防のかさ上げができないものではないのでしょうか。避難所の問題もあります。公民館や山下小学校は避難所としては不安があります。

**【参加者】**

平塚市から大磯に抜ける道路ができると昔に聞いたことがあります。まだ、そうした計画があるのでしょうか。

**【参加者】**

地域包括ケアシステムについて、単に医療や福祉などの施設を置くだけでなく、その地域の暮らしやすい仕組みづくりをすることがわかりました。交通の問題など、非常に参考になりました。

**【参加者】**

旭南地区の社協の実情を知っていただけてだけでも、良かったです。なかなかこういった話をする機会がないので、有意義でした。

**【参加者】**

私は、初めて高村のことを知って、未来が明るくなったと感じました。ありがとうございました。

**【参加者】**

本日参加させていただいた内容などを地域にも伝えていくということが大事ななと思いました。ありがとうございました。

## 【市長】

河内川の件については、本市として、大きな課題として捉えています。河川を担当している県土整備局の河川の担当に要望しているところです。一番の問題は本川の河床が上がってしまい、水の容量が流れないことです。それが、支流である河内川や高根川にしわ寄せがいつています。まずは本川について、浚渫を入れた河床整備をする必要があると考えています。また、河内川は水かさが上がりますので、構造的なものから考えなければなりません。先ほどの堤防のかさ上げも含め要望し続けていきます。

それから、道路の件ですが、湘南新道の延伸という形で今も計画が残っています。しかし、行先である大磯町が都市計画を作成していません。国道一号の補完道路として整備を計画していたものですが、本市としては、国や県にお願いをして具体的に進めたいと考えている状況です。

## 6 市長によるまとめ

今日は本当にありがとうございました。この地域の中で、高齢者の、医療介護の連携を図り、地域包括ケアシステムをどう進めていくのか、課題を多くあります。繰り返しになりますが、地域包括ケアシステムというのは単に医療や福祉を整備するというだけでなく、住みやすい形をその地域の中で作っていくということを目的としています。交通の問題や安心安全の問題も一つ一つ整理していきながら、解決を図ることができればと思います。それぞれの地域でこうした形が進むことで、その地域が輝いていくのではないのでしょうか。

今日は皆さんがそれぞれの立場からお話しいただいたことを真摯に受け止めていきたいと思います。

この地域のために一生懸命活動している皆さんが、将来に向かっての平塚のまちづくり、地域づくりを進めてほしいと、エールを送っていただいたことに、感謝を申し上げたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

## アンケート結果報告

【アンケート回答数 14件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	10人
まあよかった	3人
どちらともいえない	0人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	1人

問2 本日の「ほっとミーティング」の御感想について

- ・ 旭地区のいろいろな問題を知ることができてよかった。若い世代と高齢者が楽しく暮らせる地域にしてもらいたい。
- ・ 高村団地の高齢化問題は差し迫った問題と考える。
- ・ すばらしい対話ができました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ もっと具体的な質問と回答があれば良かったのと、もっとディスカッションがあればもっと良かった。
- ・ 聴衆が少なかった。もう少し上手なPRができないか。
- ・ 参加者が各立場で要望が聞かれ、今後の参考とさせていただきます。各層の意見をより広く聞いていきます。
- ・ 建設的な話になって良かった。
- ・ 地域の知らないことが多くあり、それを知ることができたので、参加した価値がありました。
- ・ 地域を支えている方々を頼もしく思った。